

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4571800301		
法人名	医療法人興生会		
事業所名	押川病院グループホーム和		
所在地	宮崎県西諸県郡野尻町大字東麓1132番地9 (電話) 0984-21-6266		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年4月24日

【情報提供票より】 (平成21年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年1月7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤0人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(平成21年2月10日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	0	要介護2	1
要介護3	3	要介護4	4
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85.7歳	最低 77歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	押川病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、設置母体である病院や併設施設がある場所に隣接し、民家や田園風景が広がる閑静な中にある。設立以来、地域の一員として地域のゴミ拾いを続ける等の丁寧な関係づくりのおかげで地域住民・各関係機関からの理解や協力がある。地域の行事に積極的に利用者とともに参加し、文化・芸術祭等には利用者の作品を出品して生きがいや喜びにつなげている。また、多数の利用者が農業従事者だったので、昔の暮らし：昔の遊びの本を使い回想法に力を入れたり、一人ひとりの生活歴や趣味を考慮し生活の中に取り入れる等、運営者、管理者、全職員が理念に基づき、利用者を共感的に受け入れ地域の中で生活を支える取り組みがなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となった項目の消防訓練は、地域住民の参加をしてもらい記録が取られている。介護計画を変更した際の会議録の作成も、改善計画シートを作成し改善がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価についての勉強会に積極的に出席し、管理者が評価の意義や生かし方を職員にわかりやすく伝えている。職員も評価のねらいや活用方法を理解し、サービスの質の向上に主体的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政の指導のもと3か月に1回開催している。運営推進会議でホーム側から報告や情報交換を行い議事録もあるが、参加メンバーから質問、意見、要望等はあまり出ていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情箱の設置がなされている。管理者は運営推進会議後の家族との話し合いや家族会、来訪時に一人ひとりと近況報告を行い、状態変化時は電話連絡等をしている。職員が事前に利用者や家族の思い、考えをキャッチして対応していることもあり、家族等からの意見や苦情はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	開設以来、近隣のゴミ拾いを続けており、地域住民とは円滑になじみの関係ができています。管理者や職員は利用者と一緒に出前ハーモニカ演奏、町内会の会合、地域のイベントへの参加のほか、折りに触れて事業所の実践を伝えている。その成果として、各種ボランティアの来訪や保育園児との相互交流が行われている。また、近隣へ呼びかけ消防訓練に参加してもらい、いざという時の協力をお願いしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、利用者の心が和らぐようなホームにしたいという思いのこもった地域生活の継続支援と、事業所と地域の関係性をうたった理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所内に理念を掲示し、日常的に意識づけをしている。また、月1回の全体ミーティングでも理念について確認し合いながら業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のゴミ拾いを続けていることで、地域住民と円滑になじみの関係ができています。利用者と一緒に出前ハーモニカ演奏、町内会の会合、地域のイベントの参加のほか、ボランティアの来訪や保育園児との相互交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価についての勉強会に出席し、自己評価及び外部評価の意義をとらえ、改善項目を検討した会議録等も作成し、積極的な改善へ向けての取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政指導により3か月に1回開催され、幅広い立場の人が参加して、ホームの活動・利用者の状況、外部評価と改善の取り組み等の資料を作成して、詳細に報告をしている。参加メンバーからの質問、意見、要望は少なく双方向的な会議が行えていない。	○	運営推進会議の意義を再認識して、運営推進会議を、2か月に1回以上行ってほしい。地域に開かれたサービスとして、質の確保を図る努力を運営者、管理者、全職員で実施しているので、さらに町役場関係者に積極的に相談し、参加メンバーの助言等を得られるような取り組みがなされることに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスの、よりよいあり方を模索しながら管理者が中心となり、町担当者に考え方や実態をよく知ってもらえるように、関係づくりを積極的に行い、共有する努力がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議後の家族との話し合いや家族会、来訪時に一人ひとりと近況報告を行い、状態変化時は電話連絡等をしている。金銭管理も来訪時に出納簿を明示し、確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な通信の発行や相談窓口を設けたり、個々の家族等に報告を丁寧に行っている。職員は家族が知りたいこと、してもらいたいことを考慮しながら、利用者の支援に心がけている。外部者の意見、苦情を前向きに受け止め生かしていく事業所の取り組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員のなじみの関係を保つことを重視した勤務体制や取り組みが行われており、この1年、職員の異動はない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外の研修とともに、職員が働きながら技術や知識、倫理を身につけていくための方策が多面において工夫されている。報告書は全職員が閲覧でき、サインするようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や職員は、地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会等の活動を通じてサービスの質の向上につないでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からホームへの生活の継続を重視しており、サービス開始前から本人が職員や他の利用者、サービスの場に徐々に馴染み、安心や納得を得ながら、サービス利用できるように個別の利用開始の調整を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者との関係が良好で、共に暮らす同士として、共感し受容しながら和やかな生活ができる場面づくりや声掛けが行われている。ホームのアルバムでは、職員と利用者が一緒に物づくり等を楽しそうに行っている様子が見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で寄り添いながら声を掛けたり、一人ひとりの言葉や表情等から暮らし方の希望や意向を見聞きして把握に努めている。本人の思いや希望を記したノートを職員が見れる場所に置き、利用開始前の生活状況や環境等を参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントがしっかりと取られ、介護計画にかかわる様式も確立されている。介護計画実施状況・評価表も作成しており、きめ細やかな取り組みがなされている。	○	能率的な方向で書式を統合し、無駄を省き、記録の簡素化を図ってほしい。職員の学習能力や意識も高く、しっかりしたアセスメントや記録が取られているのでパワーアップに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しがなされている。変化が生じた場合は本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所が指定を受けている他のサービスや、個別対応の外出、病院受診など必要に応じた多様な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院が隣接しており、利用者全員のかかりつけ医となっている。院長のホームへの訪問や病院の対応が適切にされており、本人や家族の希望に応じて他科受診時は職員が柔軟に対応できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の在り方について話し合いを行い、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように状態変化に応じた支援方法や、医療連携の体制ができており、終末ケアの資料の用意もある。	○	利用者が日々をよりよく過ごすために医療連携の体制やチームの連携等は確立されているので、重度化に伴う意思確認書や終末期に対する対応方針を定め、マニュアル等も作成し全職員で共有してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	日ごろより、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した言葉かけや尊重したケアを行えるように、確認と改善に向けた取り組みを行っている。個人のケース記録は、事務所に手製のカーテンで仕切って管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	主体は利用者であり、その人らしい生活の継続を大切に、日々の暮らしを利用者が胸を張っていい気分で過ごせるように、職員は、利用者と一緒に笑いあえる温かいケアをめざし支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のなじみの料理をできる限り多く取り入れている。食卓にも利用者と職員が力を合わせて作ったらっきょう漬け、みそ漬け、寒漬等が付け合わせとして出されている。利用者とともに季節ごとの料理や郷土料理に挑戦し、利用者の気持ちを引き出す支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決まっているが、利用者の希望に合わせて入浴日以外でも可能である。夏季は夜間入浴を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関等がギャラリーのようで、職員の働きかけや支援の様子が一望できる。利用者の行事参加の楽しそうな写真、園児やボランティアからの絵手紙、利用者の習字や絵等の作品が掲示されている。菜園づくり、リンゴ狩りに行ったこと等、家庭と同じく皆で喜びを共感している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、ほとんどホールで過ごすことが多いが、毎月のホーム周辺のゴミ拾い、散歩、町内会等の行事、買い物、公共機関への外出をしている。職員は季節を肌で感じ、なじみの場所にも出かけて外出を楽しめる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関からは山やまや田園風景が一望でき、花壇には花々が植えてある。鍵をかけないで利用者の安全を確保しながら、自然や人の行き来がうかがえる工夫や取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を実施している。訓練には地域住民の参加があり、いざという時の協力依頼をしている。災害に備えた備品の準備や避難口の確保、確認も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の栄養士の指導を仰ぎながら、利用者のしこう等に合わせ、職員間で食生活をさまざまな面から支援し、楽しくおいしい食事ができるように力を入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは各居室ごとにあるが、日中はほとんどの利用者がホールの共用トイレを使用している。ホールにはお手玉や遊び道具が手の届く所に置いてあり、のれん、クッション、季節ごとの飾り物等すべて手作りされ、温かく居心地よい生活ができるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使っていた食器類や使い慣れた家具が持ち込まれている。家族の写真、絵画、時計やカレンダー、職員手作りの一人ひとりの名前が入ったタオル地の手ふき（洋服型）が飾られ、居室はそれぞれ個性あるなじみの物を生かした部屋になっている。		

※  は、重点項目。